

# 本願寺に 咲く花

～仏教文化と結びついた花卉図～

米澤 信道



# 目次

本書刊行にあたって……………4

## 【雀の間】

|                |
|----------------|
| 《雀の間》天井図……………6 |
| アサガオ……………8     |
| ウメ……………9       |
| オガタマノキ……………10  |
| カキツバタ……………11   |
| ガンピ……………12     |
| キク……………13      |
| キリ……………14      |
| クズ……………15      |
| クワイ……………16     |
| コウシンバラ……………17  |
| コンギク……………18    |
| サカキ……………19     |
| シュウカイドウ……………20 |
| スイセン……………21    |

|                      |
|----------------------|
| サトザクラ（ボタンザクラ）……………67 |
| シモツケ……………68          |
| シラフジ……………69          |
| シロバナセンノウ……………70      |
| シロヨメナ……………71         |
| スイセン「寒心緑花」……………72    |
| セキチク……………73          |
| タチアオイ……………74         |
| テッセン……………75          |
| テッポウユリ……………76        |
| ハギ……………77            |
| ハクモクレン……………78        |
| ハナモモ……………79          |
| フジバカマ……………80         |
| フヨウ……………81           |
| フヨウ（キレハ型）……………82     |
| ト半椿と白菊……………83        |
| ボタン……………84           |
| ホンシヤクナゲ……………86       |
| マルバサツキ……………87        |

ススキ……………22

スモモ……………23

ダンドク……………24

ツワブキ……………25

テッセン……………26

テッポウユリ……………27

テマリバナ……………28

ナツツバキ……………29

ハス……………30

フジ……………31

ボタン……………32

ミズアオイ……………33

モモ……………34

ヤブツバキ……………35

ヤマザクラ……………36

ヤマブキ……………37

《豪華絢爛 伝わる絵師の心意気》……………38

|                           |
|---------------------------|
| ミカイドウ……………88              |
| ミズアオイ……………89              |
| ムクゲ……………90                |
| ヤエヤマブキ……………91             |
| ヤブカンゾウ……………92             |
| ヤブツバキ……………93              |
| リンドウ……………94               |
| ススキ……………95                |
| ウツギ（ウノハナ）……………96          |
| ウメ・ゴヨウマツ・ナツツバキ……………98     |
| ゴヨウマツ・フヨウ・イロハカエデ……………99   |
| シロバナタンポポ・カンサイタンポポ……………100 |
| キク……………101                |
| ヨシ……………102                |
| テッセン……………103              |
| ゴヨウマツ・ヤマザクラ……………104       |
| キク・ボタン・キリ……………105         |
| ツバキ……………106               |

## 【北狭屋の間】 【西狭屋の間】

《北狭屋の間》天井図……………40

《西狭屋の間》天井図……………48

アサガオ……………52

アジサイ……………53

ウメ……………54

カキツバタ……………55

キクザカボチャ（ポウブラ）……………56

キク……………57

ギボウシ……………58

キョウチクトウ……………59

キリ……………60

ケイトウ……………61

ケシ……………62

ケマンソウ……………63

コウシンバラ……………64

コデマリ……………65

ササユリ……………66

ボタン・ツバキ・フジ・ヤマザクラ……………107

フジ……………108

キリ……………109

## コラム

なかなか修正できないこと  
―孫引きによる誤りの連鎖―……………110

## 【境内に咲く花】

イチョウ……………112

ソテツ……………113

アケボノスギ……………114

ダイオウマツ……………115

サルスベリ……………116

キク……………117

チューリップ……………118

ムラサキリュウキウツツジ……………119

ソメイヨシノ……………120

オオガハス……………121

あとがき……………122

## 本書刊行にあたって

本書のもとになった植物は、本願寺の国宝「書院」の天井画や障壁画などで、その素晴らしい筆致に感嘆しながら、「本願寺新報」二〇一四（平成二十六）年四月一日号から二〇一七（平成二十九）年三月二〇日号まで、三年にわたってその解説を連載した。描かれている植物が植物学的には何であるかを明らかにしながら、そして当時、それらの植物がどういう理由で描かれたのか考えながらの執筆であった。絵師がその絵にかける意気込みと心意気が生半可なものではなかったであろうと、文字通り心血を注ぐような迫力を感じることができた。

当時、人気のあつた植物が多く描かれていたり、仏教的に役割や意味合いがあつたものが描かれている半面、身近な野草や野菜にまで筆が及んでいたりして、その平等精神や好奇心には驚かされた。写生を重視する狩野派や円山派の画風の特徴と思われる。

私は植物の分類が専門であるが、セミにも関心があり、特にクマゼミが江戸時代に描かれていないかということに、以前から関心を持っていた。クマゼミは近現代の化石燃料の大量使用による地球温暖化に伴って、北上・東進していったという説に疑念を持っていたからである。

ところが、円山応挙が今から二百四十五年ほど前に「ころもせみ」と称するセミの彩色画を描いており、それが今日いう「クマゼミ」のことであることを突き止めた。他にも「小蟬」（ニイニイゼミ）、「山蟬」（アブラゼミ）も描かれており、それらが京都の街で普通のセミであつたことが推測された。植物に向けられていた平等性が昆虫にも向けられていたことを証明できたようで大変な喜びであつた。つまり産業革命後に始まつた地球温暖化以前に、京都にはクマゼミが存在したのである。おそらく最後の氷期・ウルム氷期の後、一万年前〜二百四十五年前の間にクマゼミは京都に生息分布していたと考えられる。したがって、時代背景が全く異なるのであり、まことしやかに間違つた説を唱えてきた研究者やそれに追従していたマスコミは、軽薄のそしりをまぬがれないであろう。このように、絵には素晴らしい圧倒的な証拠能力がある。

連載を一回も休むことなく実施できたのは、「本願寺新報」の連載を担当してくださつた森栄淳氏のお蔭が第一である。せかすことなく、さりげなく、導いてくれるような助言があつたと思う。記して、感謝申し上げます。

二〇二〇（令和二）年一月

米澤 信道

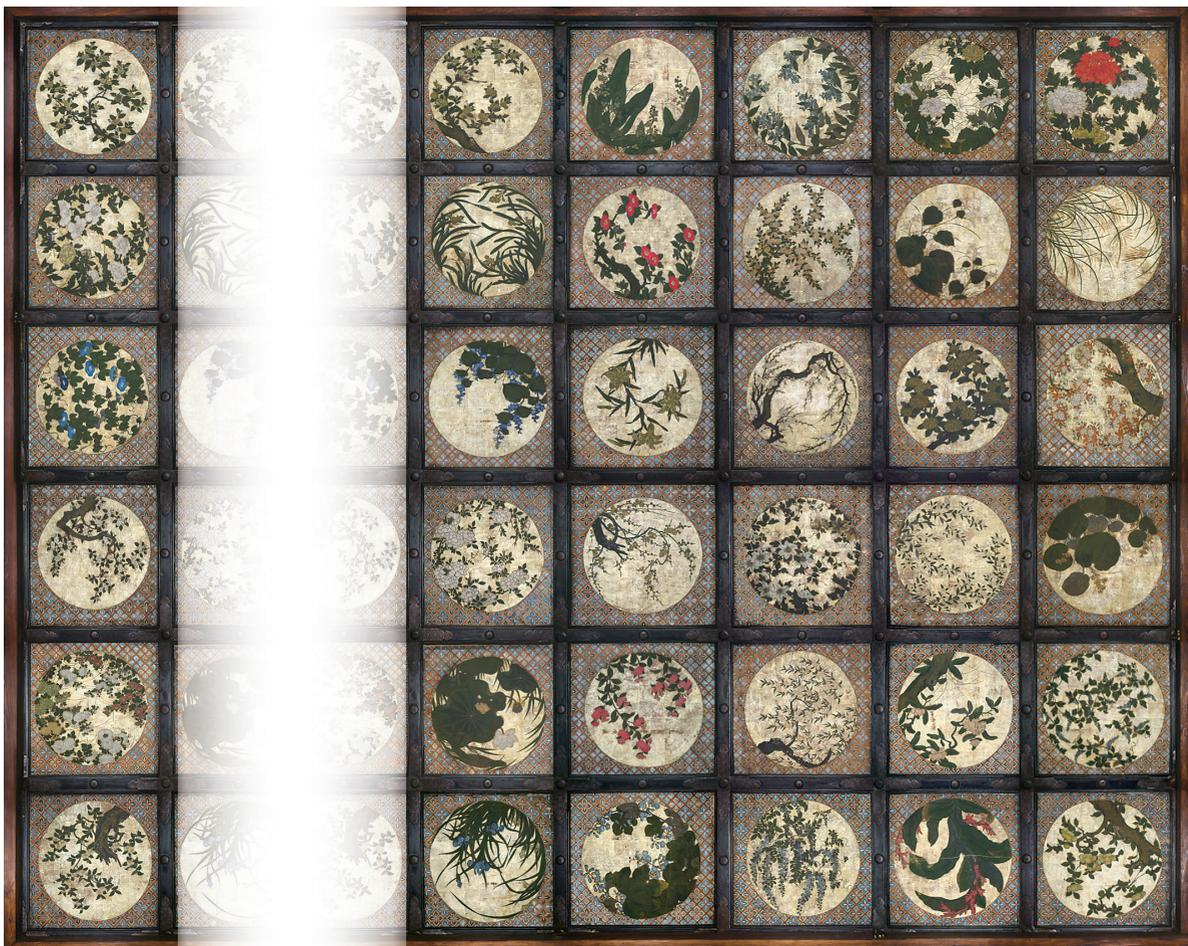
## 雀の間



# 《雀の間》天井図



|              |               |               |             |                |              |
|--------------|---------------|---------------|-------------|----------------|--------------|
| F-6<br>スモモ   | F-5<br>モモ     | F-4<br>クワイ    | F-3<br>コンギク | F-2<br>ボタン     | F-1<br>ボタン   |
| E-6<br>ボタン   | E-5<br>スイセン   | E-4<br>ヤブツバキ  | E-3<br>ヤマブキ | E-2<br>シュウカイドウ | E-1<br>ススキ   |
| D-6<br>アサガオ  | D-5<br>ミズアオイ  | D-4<br>テッポウユリ | D-3<br>ウメ   | D-2<br>テマリバナ   | D-1<br>ヤマザクラ |
| C-6<br>スモモ   | C-5<br>コウシンバラ | C-4<br>ウメ     | C-3<br>テッセン | C-2<br>サカキ     | C-1<br>ツツブキ  |
| B-6<br>キク    | B-5<br>ハス     | B-4<br>ガンピ    | B-3<br>モモ   | B-2<br>オガタマノキ  | B-1<br>クズ    |
| A-6<br>ナツツバキ | A-5<br>カキツバタ  | A-4<br>キリ     | A-3<br>フジ   | A-2<br>ダンドク    | A-1<br>ナツツバキ |



本願寺の書院「雀の間」には、江戸時代に円山派の絵師によって制作された花卉図がある。天井は縦横六列に仕切られた三十六の格間(区画)があり、各格間に円を描き、その中に色鮮やかな草木の花が描かれている。円の周囲には菱形にデザイン化された四弁の宝相華が配置されている。この格天井に描かれた植物の同定と紹介文執筆の依頼を受け、「雀の間」を訪れた。生き生きと描かれた花の姿に感動しながら、見入った。地上の花を天井に描く、それも豪華な花文様の中に描くという絵師の高揚した心意気をその筆遣いに感じた。室内はやや薄暗く、絵の保護のため照明も控えめであり、葉の緑色などは残念ながらくすんで見える。保存状態は良いが、長い年月を経過しており退色の進んでいるものもある。写実的に描かれているとはいえ、細部は省略されているケースもあり、同定には慎重を期した。

在来種で身近な種のほか、絶滅危惧種、中国から伝えられた種も意外と多くあり、当時の仏教文化と結びついた花卉文化の豊かさを窺い知ることができる。別の個体ではあるが同じ種が重複して描かれているケースもあり、それらは当時の人々の関心が高かった種とも推測される。本願寺には「雀の間」以外にも天井、障壁に多数の優れた花卉図が描かれており、時代背景、絵師(作者)、作風などそれぞれに異なり、興味深い。



C-4

## ウメ

学名=Prunus mume (スモモ属 ウメ (日本名))

中国原産の落葉高木。漢名「梅」。相当古く、中国から伝来した。花を觀賞用に、果実を食用に栽培する。

古い枝にはとげがあるが、小枝の変形したものである。葉は互い違いに出て卵形で、縁には小さいギザギザがある。

寒中に葉の展開よりも先に開花し、芳香を放ち、春の到来をいち早く告げる。花の柄はほとんどなく、通常白色、5弁の花を水平に開く。淡紅色、紅紫色、八重咲など多くの園芸品種がある。古くから和歌などにも多く詠まれ、障壁画にも好んで描かれ、紋所にも使われる。

梅雨の頃、果実は黄色に熟す。中には大きな核果があり、果肉は強い酸味がある。シソの葉と一緒に塩漬にする。「梅干を思い浮かべただけで唾液が出る(条件反射)」のは日本人だけというが、日本の文芸、食文化に大きな影響を与えた植物である。



D-3

## アサガオ

学名=Ipomoea nil (サツマイモ属 アラビア名)

D-6

ヒルガオ科。属名は「イモ虫」に「似た」の意味。アサガオが物にからみついて這いのぼる性質に由来。

アジア原産の一年草。茎は蔓となり、左巻きで他に巻き付き、長さ3メートル以上になる。日本で古くから觀賞用に栽培されるものは、葉は普通3〜5裂し、毛が多い。

早朝に咲き、昼に萎む。花は漏斗状で雄しべは5本、雌しべは1本である。花色は多彩で濃淡も多様である。蕾は筆頭状で、右巻きのひだがある。果実は球形で3室があり、各室に1〜2個の種子がある。

江戸時代の園芸ブームの中で、細く裂けた花弁や管状の花弁などをもつ「変化朝顔」も作り出された。「雀の間」に描かれたものは普通の品種である。

昨今は、濃青色の花、単葉、多年生、種子ができない特徴を持つリュウキュウアサガオが、緑のカーテン用に栽培されている。